

ふくおかフィナンシャルグループ  
Fukuoka Financial Group

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ  
ミニディスクロージャー誌

平成18年4月1日～平成19年3月31日 営業のご報告

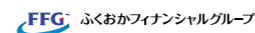


## Contents

- 02 ごあいさつ・会社概要
- 03 ふくおかフィナンシャルグループについて
- 06 福岡銀行  
平成18年度の業績ハイライト
- 11 福岡銀行の財務諸表
- 13 福岡銀行の地域貢献活動
- 14 福岡銀行のトピックス
- 15 福岡銀行からのお知らせ
- 16 熊本ファミリー銀行  
平成18年度の業績ハイライト
- 21 熊本ファミリー銀行の財務諸表
- 23 熊本ファミリー銀行の地域貢献活動
- 24 熊本ファミリー銀行のトピックス
- 25 ふくおかフィナンシャルグループ  
からのお知らせ
- 26 ローンセンター・ローンプラザのご案内
- 27 商品のご案内
- 29 「ふくおかフィナンシャルグループ」  
グループ企業の格付
- 30 株式の状況

# あなたのいちばんに。

平成19年4月2日、ふくおかフィナンシャルグループ誕生。



## ごあいさつ

皆さまには平素より格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

私も株式会社福岡銀行と株式会社熊本ファミリー銀行は、平成19年4月2日に設立されました持株会社「株式会社ふくおかフィナンシャルグループ(FFG)」のもとに経営統合し、新しい地域金融グループとしてスタートを切りました。

新グループの誕生を機に、皆さまの永年のご愛顧により築いてまいりました充実したネットワークをさらに活かし、地域を結び、人と人、企業と企業を結ぶ存在として、なお一層、金融を通して地域社会の発展に貢献してまいりたいと考えております。

新グループで働くひとりひとりが、ブランドスローガンである「あなたのいちばんに。」を目指して、地域社会やお取引先、お客さまの期待を超える、価値ある商品やサービスをご提供できるよう力をあわせてまいります。

さて、このたび、平成18年度の両行の営業概況や、グループの概況および経営方針をまとめました「ふくおかフィナンシャルグループのミニディスクロージャー誌」を作成いたしました。当グループをより深くご理解いただくためのご参考になれば幸いです。

今後とも、役職員一同総力を結集して努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成19年6月  
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ  
取締役会長兼社長 **谷 正明**

## 会社概要

|               |  |
|---------------|--|
| 商 号           | 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ( 英文名称 Fukuoka Financial Group, Inc.) |
| 本 店 所 在 地     | 福岡県福岡市中央区天神2丁目13番1号                                      |
| 設 立 日         | 平成19年4月2日( 月 )   |
| 事 業 内 容       | 銀行、その他銀行法により子会社とすることができる会社の経営管理およびこれに附帯する業務              |
| 資 本 金         | 1,000億円  |
| 上 場 証 券 取 引 所 | 東証、大証、福証   |

## ふくおかフィナンシャルグループについて

### グループ経営理念

ふくおかフィナンシャルグループは、  
**高い感受性と失敗を恐れない行動力を持ち、  
 未来志向で高品質を追求し、  
 人々の最良な選択を後押しする、**  
 すべてのステークホルダーに対し、価値創造を提供する  
 金融グループを目指します。

#### 高い感受性と失敗を恐れない行動力

様々な情報や世の中の動きにいつも好奇心のアンテナを張り、敏感に反応できる感受性と、様々な場面で失敗を恐れずに行動を起こすチャレンジ精神を常に磨くことです。

#### 未来志向で品質を追求

意識を少しだけ未来におきながら、着実に変化させる。人々の役に立つための真に良い商品やサービスを最良のマナーで提供することがFFGの使命です。

#### 人々の最良な選択を後押しする

お客さまやパートナーと共に考え、悩み、選択のための後ろ盾となることが、FFGの目的であり、存在理由なのです。

これらによって、お客さまや地域社会、株主の皆さま、そして一緒に働く仲間にとっても、価値創造のパートナーとして認められることを目指していきます。

### グループブランド

ふくおかフィナンシャルグループでは、グループ経営理念を共通の価値観として行動し、お客さま、株主の皆さま、地域社会の皆さまにとって真に価値ある存在であり続けるための約束として、『コアバリュー』を表明し、ブランドスローガン『あなたのいちばんに。』を展開してまいります。

#### ブランドスローガン

あなたのいちばんに。

#### コアバリュー(ブランドスローガンに込められたお客さまへの約束)

- ・いちばん身近な銀行  
お客さまの声に親身に心から耳を傾け、対話し、共に歩みます。
- ・いちばん頼れる銀行  
豊富な知識と情報を活かし、お客さま一人ひとりに最も適したサービスを提供します。
- ・いちばん先を行く銀行  
金融サービスのプロ集団として、すべての人の期待を超える提案を続けます。

#### シンボルマーク



#### ロゴタイプ

ふくおかフィナンシャルグループ  
 Fukuoka Financial Group

ふくおかフィナンシャルグループの名称は、九州の顔とも言われる『ふくおか』を冠しました。『ふくおか』の持つ視覚的イメージ、音の響きが、グループの成長、躍進、安定を表しています。シンボルマークに込めたメッセージは、『つながり=リング(輪)』です。地域を結び、人と人、企業と企業を結ぶ存在でありたいとの思いを躍動感あるリングで表しています。青い色は、九州の誇る『鮮やかな海、空』を表し、県境も組織の枠も超えて、地域を愛する気持ちを表しました。

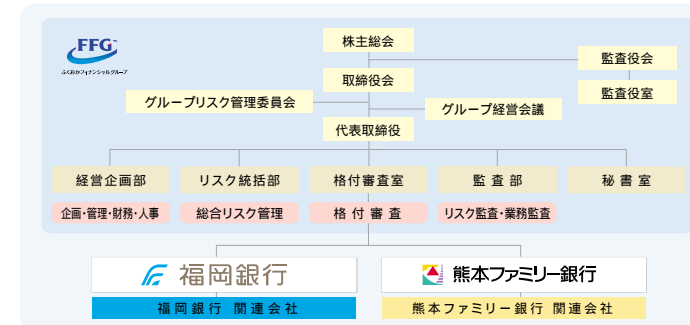
### コンプライアンス(法令等遵守)経営の実践

当社は、コンプライアンスを経営の最重要課題と位置付けております。お客さまからより多くの信頼・支持を得るため、今後ともコンプライアンスの充実に努めてまいります。

### グループ概要

#### 組織図

ふくおかフィナンシャルグループは、グループ全体のガバナンス体制の強化およびリスクコントロール体制の確保、ならびに内部管理体制の構築をはじめとした持株会社としての機能(子銀行およびグループ各社の経営管理)を適時適切に発揮するため、以下の経営機構・業務機構体制で運営にあたります。



#### 平成19年3月末(単純合算)

| (単位:億円)          | 福岡銀行   | 熊本ファミリー銀行 | 2行単純合算 |
|------------------|--------|-----------|--------|
| 総資産              | 79,840 | 13,165    | 93,005 |
| 貸出金<br>(部分直接償却後) | 53,688 | 9,806     | 63,494 |
| 有価証券             | 20,443 | 2,342     | 22,785 |
| 預金+NCD           | 69,324 | 11,934    | 81,258 |
| コア業務純益           | 600    | 106       | 707    |
| 当期純利益            | 330    | 570       | 241    |
| 従業員数             | 3,537人 | 1,074人    | 4,611人 |
| 営業拠点数            | 170店   | 78店       | 248店   |

### FFG中期経営計画の概要

#### FFG中期経営計画名称:「FFG第一次中期経営計画」

FFG第一次中期経営計画期間:2007年4月~2009年3月(平成19年4月~平成21年3月)の2ヵ年

|        | 福岡銀行                               | 熊本ファミリー銀行                          |
|--------|------------------------------------|------------------------------------|
| 経営名称期間 | 中期経営計画2007<br>2007年4月~2009年3月(2ヵ年) | 中期経営計画2007<br>2007年4月~2009年3月(2ヵ年) |
| 目指す銀行像 | 期待を超える銀行                           | 地域になくてはならない銀行                      |
| 基本方針   | 知と行動の総力展開                          | 攻めの経営・規律ある経営                       |

FFG「第一次中期経営計画」の策定に合わせ、福岡銀行は中期経営計画の目標指標の修正を、熊本ファミリー銀行は新しい中期経営計画の策定を行いました。

両子銀行は、FFGグループ中計の基、各々の強みを活かした営業戦略の展開と、グループ力を活用した高度な金融サービスを提供するとともに、サービス品質の向上を図ることで、福岡・熊本両県での顧客基盤を拡大してまいります。

## ふくおかフィナンシャルグループについて

### FFG第一次中期経営計画の目標とする経営指標

#### 中計最終年度(平成20年度)

FFG「第一次中期経営計画」最終年度(20年度)における、目標とする経営指標は、「連結当期純利益」「連結不良債権比率」「連結ROE」の3指標とします。目標とする3指標以外の指標「連結自己資本比率」「連結Tier比率」「外部格付」は、「第一次中期経営計画」のシナリオを前提に次のような水準を見込んでおります。

| 目標指標     | 金利横進シナリオ |       | 金利上昇シナリオ |  |
|----------|----------|-------|----------|--|
|          | 連結当期純利益  | 420億円 | 460億円    |  |
| 連結不良債権比率 | 1%台      |       |          |  |
| 連結ROE    | 8.0%     | 8.5%  |          |  |
| その他の指標   |          |       |          |  |
| 連結自己資本比率 | 10%      |       |          |  |
| 連結Tier比率 | 8%       |       |          |  |
| 外部格付     | AA格取得    |       |          |  |

| 目標指標        | 金利横進シナリオ |       | 金利上昇シナリオ |  |
|-------------|----------|-------|----------|--|
|             | コア業務純益   | 730億円 | 790億円    |  |
| 当期純利益       | 380億円    | 415億円 |          |  |
| 不良債権比率      | 1%台      |       |          |  |
| O H R       | 50%未満    | 47%   |          |  |
| 中小企業等向貸出金残高 | 4兆円      |       |          |  |
| 福岡県内貸出金シェア  | 30%      |       |          |  |

| 目標指標        | 金利横進シナリオ  |       | 金利上昇シナリオ |  |
|-------------|-----------|-------|----------|--|
|             | コア業務純益    | 150億円 | 160億円    |  |
| 当期純利益       | 90億円      | 100億円 |          |  |
| 不良債権比率      | 3%台       |       |          |  |
| O H R       | 55%       | 53%   |          |  |
| 中小企業等向貸出金残高 | 1兆1,000億円 |       |          |  |
| 預金残高        | 1兆3,000億円 |       |          |  |
| 資産運用商品販売額   | 年間1,000億円 |       |          |  |

### FFGの中期経営戦略

FFG「第一次中期経営計画」は、グループガバナンス体制を確立し、両行営業戦略の融合により顧客基盤を拡大するとともに、事務・ITの共通化および人材の融和のもとたすメリットを追求することにより、統合シナジー効果を早期に最大化することを基本方針といたします。

FFG「第一次中期経営計画」の戦略体系は、営業戦略、リスクマネジメント戦略、事務戦略、IT戦略、人材戦略、クオリティ戦略の6つの戦略で構成します。



## 福岡銀行 平成18年度の業績ハイライト(第96期)

### 損益の状況

平成18年度決算におきまして、「コア業務純益600億円」「当期純利益330億円」といずれも過去最高益を計上しました。

#### 損益状況(単体ベース)

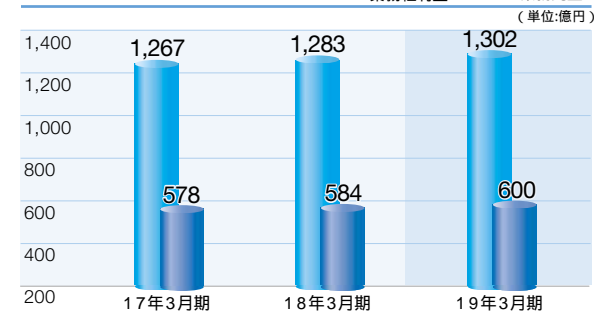
|         | 平成17年度 | 平成18年度 | 前年比 |
|---------|--------|--------|-----|
| 業務粗利益   | 1,283  | 1,302  | +19 |
| 資金利益    | 1,039  | 1,052  | +14 |
| 国内部門    | 970    | 1,009  | +39 |
| 国際部門    | 68     | 43     | -26 |
| 役務取引等利益 | 215    | 215    | 0   |
| 特定取引利益  | 15     | 24     | +10 |
| その他業務利益 | 15     | 11     | -4  |
| 経費      | 699    | 705    | +5  |
| うち人件費   | 318    | 329    | +10 |
| コア業務純益  | 584    | 600    | +16 |
| 業務純益    | 627    | 621    | -6  |
| 経常利益    | 543    | 563    | +21 |
| 信用コスト   | 35     | 33     | -2  |
| 当期純利益   | 302    | 330    | +28 |

「コア業務純益」は、国際資金利益の減少や経費の増加を国内資金利益および非資金利益の増加でカバーし、前年比16億円増加し600億円となり、6年連続で過去最高益を更新しました。

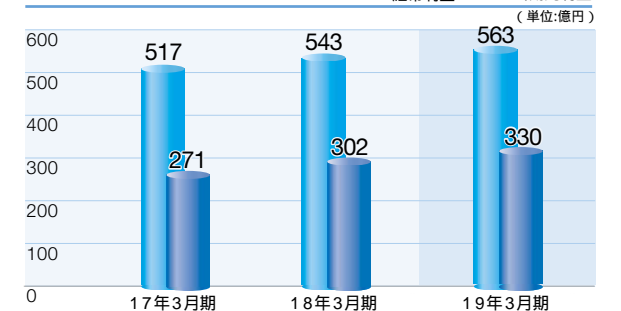
「信用コスト」は、企業業績の向上や取引先企業への再生支援等により貸出資産の健全化が進んだこと等から、4年連続減少しました。

「当期純利益」は、経常利益の増加等により、前年比28億円増加し330億円となり4年連続で過去最高益を更新しました。

#### 業務粗利益・コア業務純益



#### 経常利益・当期純利益



#### 用語解説

##### 「銀行の決算について」

業務粗利益とは、銀行本来の業務での「収益」と「費用」の差額で、経費控除前の粗利益のことです。

当期純利益とは、経常利益から税金などを差し引いた最終的な利益のことです。

コア業務純益とは、預貸金業務による資金利益や為替業務による手数料利益などから経費を差し引いたもので、銀行本来の業務から得られる利益を示したものです。(式)  $\text{コア業務純益} = \text{業務純益} - \text{一般貸倒引当金繰入} - \text{国債等債券損益}$

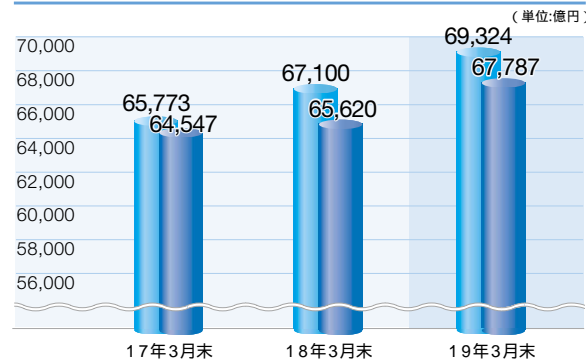
預金等の状況

預金の状況

預金は、引き続き増加しており、期末残高は前年比2,167億円増加し6兆7,787億円となりました。

また、譲渡性預金を含めた総資金残高は、前年比2,224億円増加し6兆9,324億円となりました。

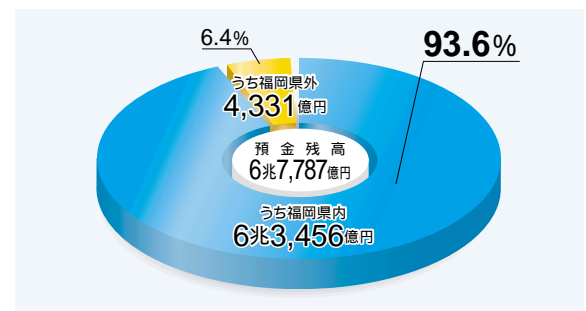
預金・総資金残高(期末残高)



福岡県内の預金残高

預金残高6兆7,787億円のうち、9割以上の6兆3,456億円を県内のお客さまからお預かりしています。

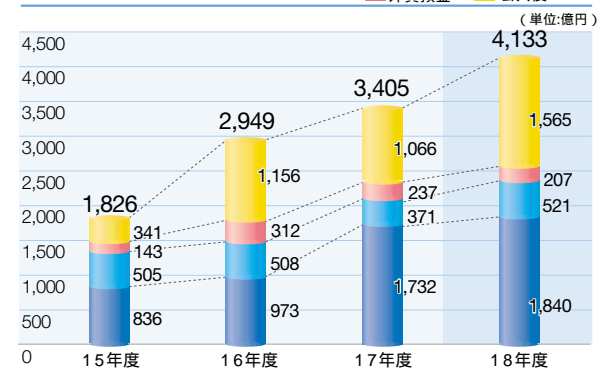
預金残高(全体・県内)



資産運用商品販売額

資産運用商品は公共債販売を中心に好調に推移し、年間販売額は、前年比728億円の増加となり4,133億円となりました。

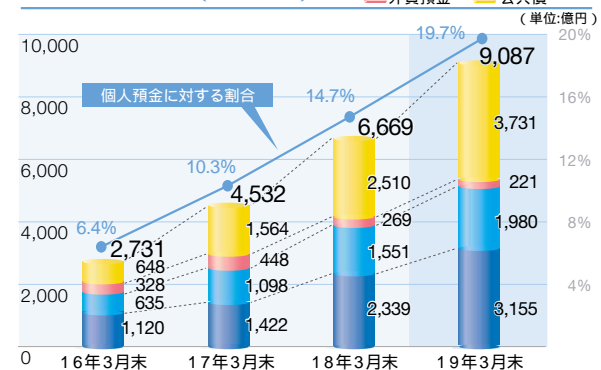
資産運用商品販売額



個人預かり資産残高(期末残高)

個人預かり資産残高は前年比2,418億円増加し、個人預金に対する割合は前年比5%増加の19.7%となっております。

個人預かり資産残高(期末残高)

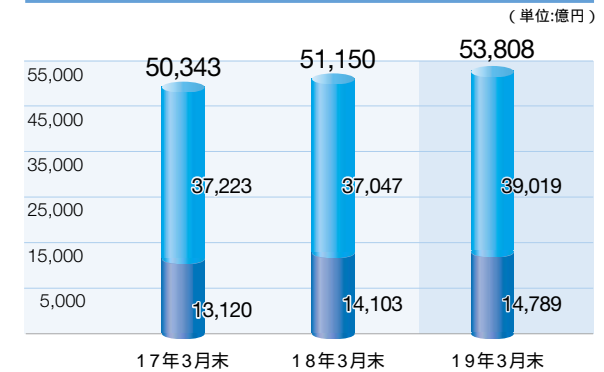


貸出金の状況

貸出金の状況

貸出金は、地元企業を中心とした新規取引の開拓や総合取引の拡大に努め、また個人のお客さまの住宅ローンをはじめとしたニーズにも積極的にお応えいたしました結果、期末残高は前年比2,658億円増加し5兆3,808億円となりました。

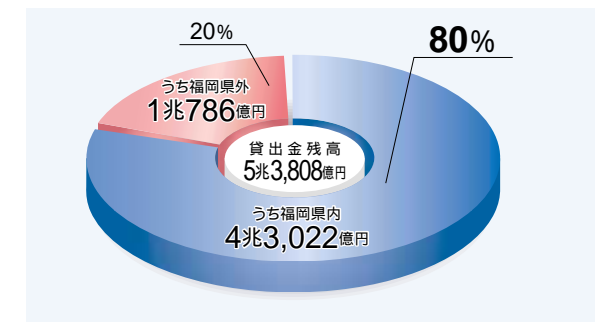
貸出金残高(期末残高)



福岡県内の貸出残高

福岡県内貸出金残高は、総貸出金残高5兆3,808億円の8割を占め、4兆3,022億円となっています。

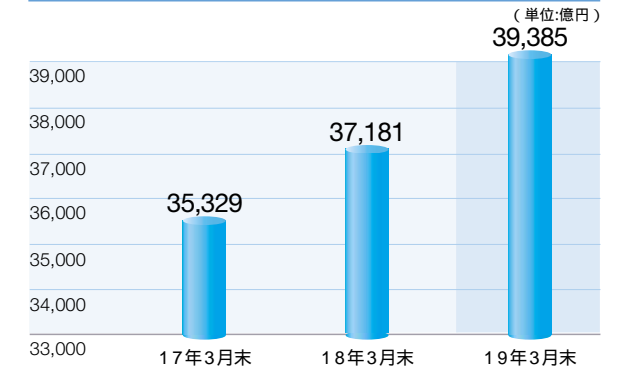
貸出金残高(全体・県内)



中小企業等貸出金の状況

中小企業等貸出金残高は、前年比2,204億円増加し、期末残高は3兆9,385億円となりました。

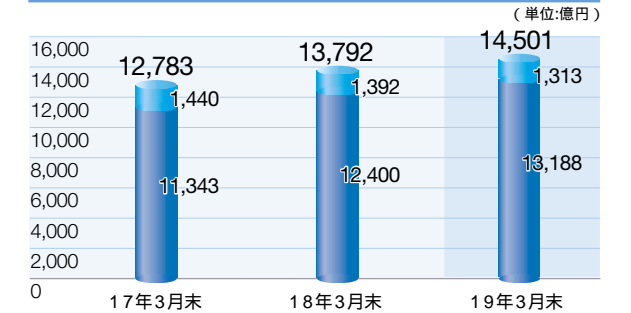
中小企業等貸出金残高(期末残高)



ローン残高(期末残高)

個人ローンでは住宅ローンを中心に前年比709億円増加し1兆4,501億円となりました。

ローン残高(期末残高)

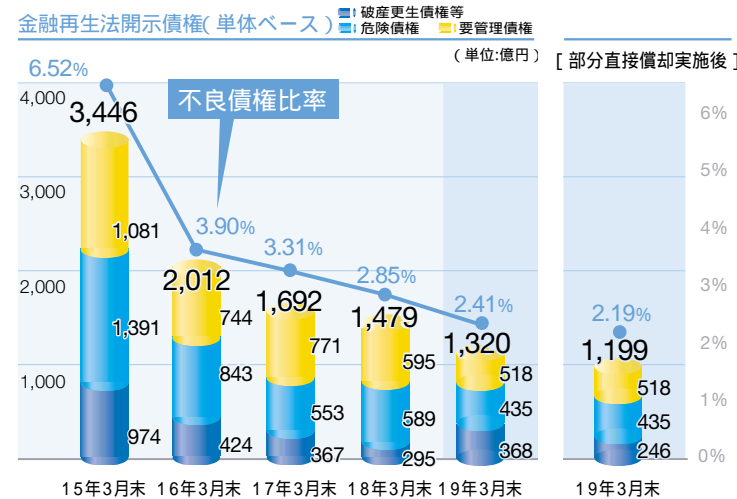


不良債権の状況

不良債権の状況

当行は、事業再生や企業の健全化支援を進めつつ、引き続き不良債権の圧縮に努めています。

平成19年3月末の不良債権残高(金融再生法開示債権)は、前年比159億円減少し1,320億円となり、不良債権比率も前年比0.44%低下し2.41%となりました。また、部分直接償却を実施した場合、不良債権残高は1,199億円、不良債権比率は2.19%となります。



部分直接償却とは...自己査定により回収不能または無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額することです。このため、部分直接償却を実施すれば、不良債権残高は減少します。

不良債権に対する備え

平成19年3月末の金融再生法開示債権1,320億円のうち、1,072億円は貸倒引当金および担保・保証等でカバーしており、保全率は81.2%と十分な引当・保全状況を維持しています。

不良債権の保全内訳(金融再生法開示債権、単体ベース)

|         | 債権額   | 保全等カバー | 引当金 | 担保・保証等 | 保全率    |
|---------|-------|--------|-----|--------|--------|
| 破産更生債権等 | 368   | 368    | 176 | 192    | 100.0% |
| 危険債権    | 435   | 396    | 143 | 252    | 91.0%  |
| 要管理債権   | 518   | 309    | 183 | 125    | 59.6%  |
| 合計      | 1,320 | 1,072  | 503 | 569    | 81.2%  |

用語解説

「金融再生法開示債権の定義」

「債権額とは...貸出金、外国為替、未収利息、支払承諾見返、貸付有価証券、仮払金等の合計額。

「危険債権とは...債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

「破産更生債権およびこれらに準ずる債権とは...破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権。

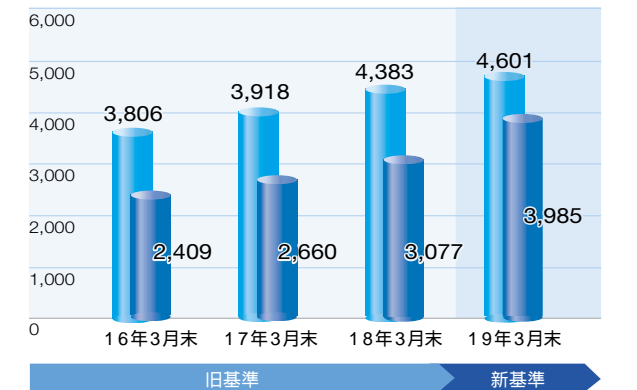
「要管理債権とは...3か月以上延滞債権および貸出条件緩和債権。

自己資本比率の状況(連結・国内基準)

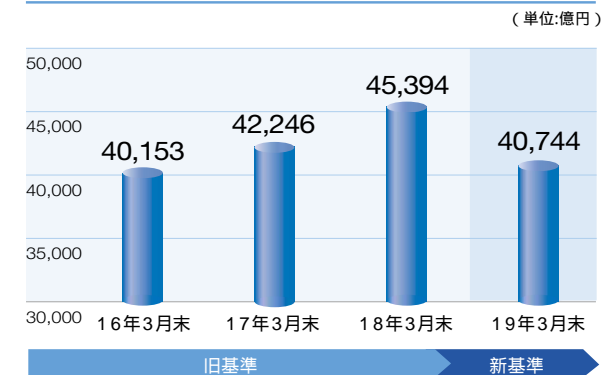
平成19年3月末の自己資本残高は、利益の積み上げや経営統合のための優先出資証券の発行等により、(注1)前年旧基準比218億円増加(Tierは908億円増加)し、4,601億円となりました。

連結自己資本比率は、オペレーショナル・リスク・アセットが新たに追加されたものの、内部格付の勘案等により信用リスク・アセットが大幅に減少したため、前年旧基準比1.64%上昇し、11.29%となりました。また、Tier比率も前年旧基準比3.01%上昇し9.78%と大幅に上昇しました。

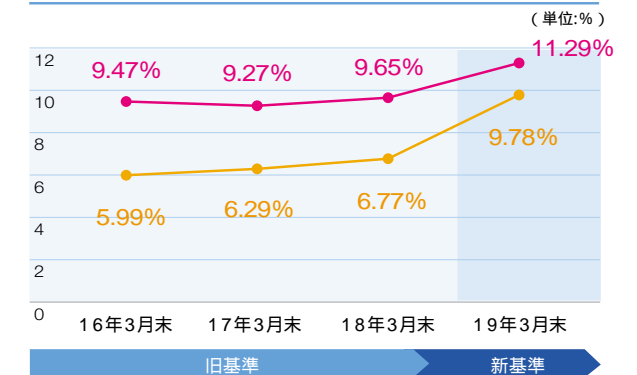
自己資本残高(連結) (単位:億円)



リスク・アセット(連結)



自己資本比率・Tier比率(連結) (単位:%)



用語解説

「自己資本比率」

自己資本比率 =  $\frac{\text{資本金などの自己資本(注2)}}{\text{リスク・アセット(注3)}}$  リスク・アセット(貸出金などの資産)に対する自己資本(資本金および過去の利益の蓄積等)の割合を示したもので、経営の安全性を示す重要な指標といわれています。

(注1)平成19年3月末から、新しい自己資本比率規制(バーゼル)に基づき、信用リスクについては基礎的内部格付手法を、また、オペレーショナル・リスクについては相利益配分手法を採用し、自己資本比率を算出しております。

(注2)「自己資本」は、資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目(Tier 1)と、劣後ローン・土地の含み益などの補完的項目(Tier 2)とに区分されます。

(注3)「リスク・アセット」とは、資産の各項目にそれぞれのリスク・ウェイト(信用リスクの度合い)を乗じて得た額の合計額のことです。



### 地域企業の皆さまへの経営サポート

財団法人九州・山口地域企業育成基金(略称:キューテック)は地域の技術指向型中小企業に対し、研究開発および人材育成に対する助成、債務保証による資金の支援、情報の提供等各種の事業に取り組んでいます。



### ふくぎん経営者クラブ

「ふくぎん経営者クラブ」では、経営講演会・実務セミナーの開催やビジネス交流会の実施、ホームページからの「経営情報提供サービス」など、最新の経営情報や業種を超えた情報交換の場をお客さまに提供し、地域経済活性化のお手伝いを行っています。



### 地域行事への参加

当行は、地域社会の一員として、郷土の代表的なお祭りである、福岡の「博多どんたく港まつり」、北九州の「わっしょい百万夏まつり」、久留米の「水の祭典 久留米まつり」などさまざまな地域行事に参加しています。



### 財団法人福銀報公会

当財団は、福岡銀行が「ふるさとをもつ地方銀行」として、本来業務を通しての地域貢献活動だけでなく、教育・文化活動を通して幅広く地域社会に貢献することを目的に設立されました。

毎年1月に本店大ホールにおきまして、九州交響楽団による「ふくぎんニューイヤーコンサート」を開催し、また、本店広場での「ビルの谷間のコンサート」は開催回数200回を超え、地域の皆さまからあたたかいご声援をいただいています。



平成19年2月

### 赤坂門支店の新店舗リニューアルオープン

赤坂門支店は、平成19年2月13日に新店舗をリニューアルオープンいたしました。

デザイン面では木質を基調とした家具類(カウンター・サインボード・ポスターボード等)を多用することで温かみや上質感による心地よさを提供し、機能面では多目的トイレの設置や車椅子にも対応できるゆったりしたエレベータの設置などのバリアフリー設備を充実させることで全ての人に優しい店舗を実現しました。



平成19年2月

### ふくぎんリブラ北九州内への前田証券の相談ブースの設置について

ふくぎんリブラ北九州内に前田証券ブースを設置いたしました。

さらに、リブラ北九州および当行小倉支店が入居するビルの7階に前田証券小倉支店も入居いたしました。

これにより、当行と前田証券がそれぞれに持つノウハウや強みを活かしながら銀行商品、証券商品をワンストップで提供できる体制を整えております。

なお、同様の共同店舗方式は黒崎支店に続き2カ店目となります。

平成19年3月

### 福岡銀行と熊本ファミリー銀行による銀行代理業務取扱開始について

福岡銀行が熊本ファミリー銀行の銀行代理店として、熊本ファミリー銀行のお客さまからの電話・FAX・インターネット等非対面チャネルでの個人ローン仮申込みの受付業務全般を取り扱うものです。

今後はさらに、銀行代理業務における取扱商品・取扱業務の拡大を図り、銀行代理サービス提供により地域のお客さまの利便性向上と幅広い金融ニーズにお応えできるよう努めて参ります。

平成19年4月

### 新研修センター(人財開発センター)の本格稼働

お客さまに最高のサービスを提供するうえで欠かせない人財育成を更に強化するため、研修施設の建て替えを行いました。新研修センター(人財開発センター)は5階建てで、自由学習室や行員同士が議論できるディスカッションルームを設置。その他16の研修室と112の宿泊室があり、160人が1度に合宿できるなど設備を充実させました。





# 福岡銀行からのお知らせ

## 福岡銀行 創業130周年記念事業の実施について

福岡銀行は、平成19年11月1日に創業130周年を迎えることとなりました。

これもひとえにお客さまや地域の皆さまからの温かいご支援、ご愛顧の賜物と役職員一同心から御礼申し上げます。

「ふくぎん」から「130周年の感謝の気持ち」をお伝えするため、下記のとおり「130周年特別記念イベント」および「地域社会への貢献、その他130周年事業」を実施いたします。



### 130周年特別記念イベント

#### 1. スポーツ・芸術文化活動

福岡 Yahoo! JAPAN ドーム・ジャックにご招待!

平成19年5月3日

国立ポリショイサーカスにご招待! 平成19年8月

博多 天神落語まつりにご招待! 平成19年11月

博多座にご招待! 平成20年1月

ふくぎん主催のパブリックコンサート 通年(3回程度)

#### 2. 特別企画商品

創業130周年記念定期預金 平成19年初夏

アレコレカード・ボーナスポイントキャンペーン 平成19年初夏

#### 3. 特別講演

創業130周年記念 特別講演会 平成19年初夏

#### 4. 地域社会への貢献

少年スポーツの振興 随時

当行行員のボランティア活動を推奨・支援 随時

九州経済調査協会の調査活動への協力・共同研究 平成19年初夏

#### 5. その他130周年記念事業

行内研修所「人財開発センター」の建替え 平成19年4月

新本部ビルの建設 平成20年春竣工

本店リニューアル構想の発表 平成19年夏

営業店の建替え・リニューアル

(ブランドコンセプト&バリアフリー) 平成21年度中

福岡ソフトバンクホークス「野球観戦」にご招待!!  
(平成19年5月3日)



「ふくぎんラグビーフェスタ」開催!(平成19年5月13日)



イベントの内容等についての詳細は、福岡銀行ホームページをご覧ください。

<http://www.fukuokabank.co.jp/>

# 熊本ファミリー - 銀行 平成18年度の業績ハイライト(第15期)

## 損益の状況

平成18年度決算は、貸出金利息の減少および国債等債券売却損の増加、さらに信用コストについては経営統合後の極小化を目的とした処理費用が増大したことから、業務粗利益、コア業務純益は減益、経常利益、当期純利益については損失の計上となりました。

### 損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

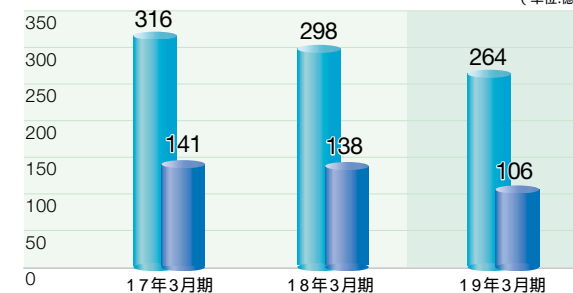
|         | 平成17年度 | 平成18年度 | 前年比 |
|---------|--------|--------|-----|
| 業務粗利益   | 298    | 264    | 34  |
| 資金利益    | 283    | 255    | 28  |
| 国内部門    | 282    | 255    | 28  |
| 国際部門    | 1      | 1      | 0   |
| 役員取引等利益 | 13     | 19     | 6   |
| その他業務利益 | 1      | 11     | 12  |
| 経費      | 159    | 170    | 11  |
| うち人件費   | 84     | 90     | 6   |
| コア業務純益  | 138    | 106    | 32  |
| 業務純益    | 133    | 26     | 107 |
| 経常利益    | 53     | 618    | 671 |
| 信用コスト   | 137    | 686    | 548 |
| 当期純利益   | 47     | 570    | 617 |

「業務粗利益」は、利回りの低下による貸出金利息の減少、劣後ローンおよび優先出資証券による調達コスト増や、国債等債券売却損の増加で前年比34億円の減益となりました。

「信用コスト」は、当行の自己査定基準および貸倒償却・引当基準等の財務基準を福岡銀行の基準に統一し、さらには事業再生の対象先の拡大や事業再生のスピードアップを図るために不良債権処理を実施した結果、686億円となりましたが、将来のリスクに対する備えは十分なものとなりました。

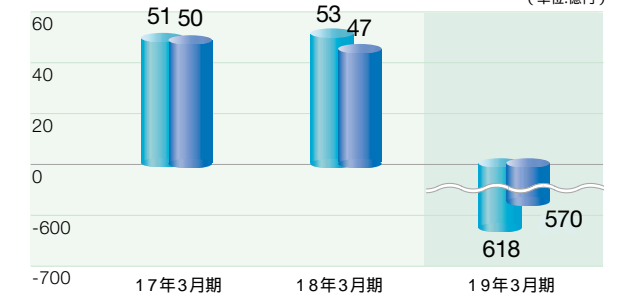
### 業務粗利益・コア業務純益

(単位:億円)



### 経常利益・当期純利益

(単位:億円)



用語解説

### 「銀行の決算について」

業務粗利益とは、銀行本来の業務での「収益」と「費用」の差額で、経費控除前の粗利益のことです。  
 当期純利益とは、経常利益から税金などを差し引いた最終的な利益のことです。  
 コア業務純益とは、預貸金業務による資金利益や為替業務による手数料利益などから経費を差し引いたもので、銀行本来の業務から得られる利益を示したものです。(式)  $\text{コア業務純益} = \text{業務純益} - \text{一般貸倒引当金繰入} - \text{国債等債券損益}$

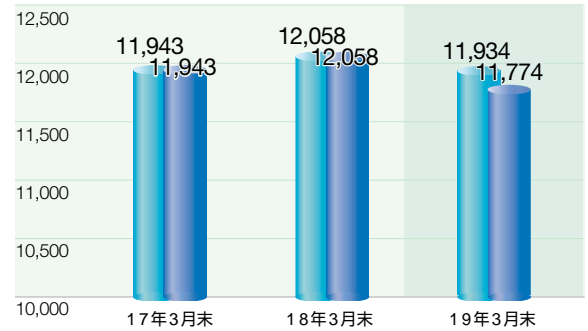
平成17年3月期、平成18年3月期は、上記(式)より更に「金融派生商品損益」を控除して算出しております。

預金等の状況

預金の状況

譲渡性預金を含めた総資金未残では、個人預金は増加しましたが、法人預金の減少により前期比124億円減少し、1兆1,934億円になりました。

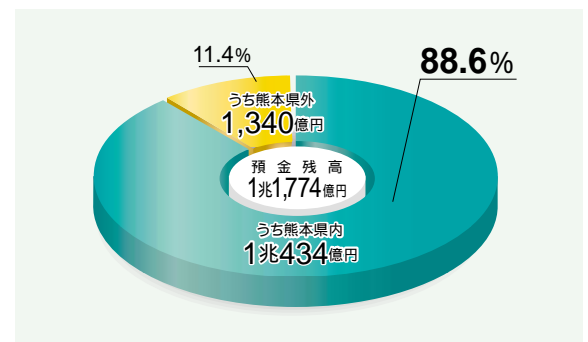
預金・総資金残高(期末残高) (単位:億円)



熊本県内の預金残高

預金残高1兆1,774億円のうち88.6%の1兆434億円を県内のお客さまからお預かりしています。

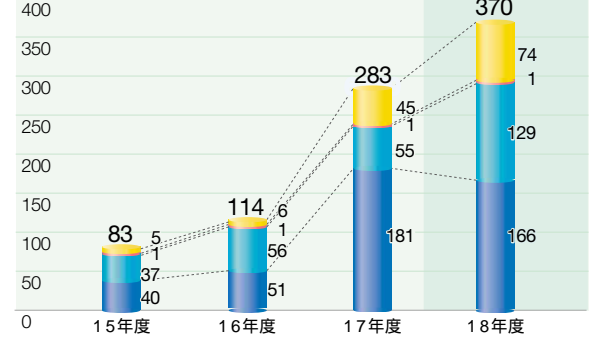
預金残高(全体・県内)



資産運用商品販売額

資産運用商品は、個人年金保険を中心に好調に推移し、年間販売額は前年比87億円増加となり370億円となりました。

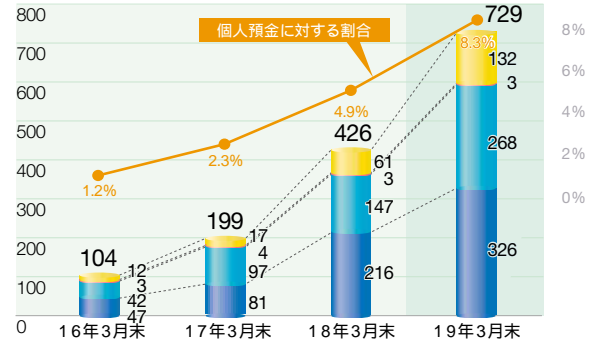
資産運用商品販売額 (単位:億円)



個人預かり資産残高(期末残高)

個人預かり資産残高は、前年比302億円増加の729億円と大幅に増加しました。

個人預かり資産残高(期末残高) (単位:億円)

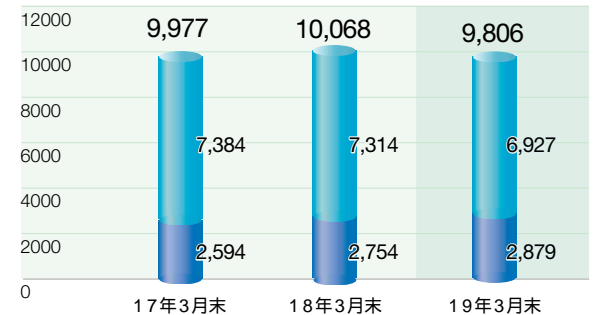


貸出金の状況

貸出金の状況

住宅ローンの増加により個人貸出金は124億円増加しましたが、法人貸出金の減少により前年比263億円減少し9,806億円となりました。

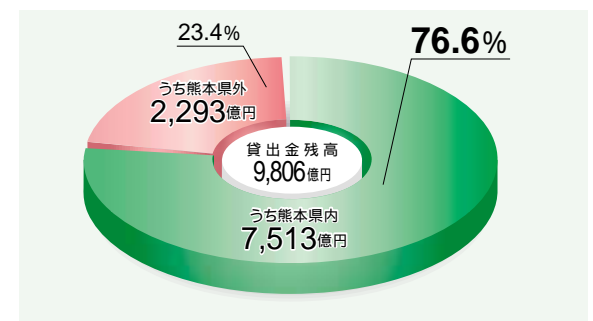
貸出金残高(期末残高) (単位:億円)



熊本県内の貸出残高

熊本県内貸出金残高は、総貸出金残高9,806億円のうち76.6%を占め7,513億円となりました。

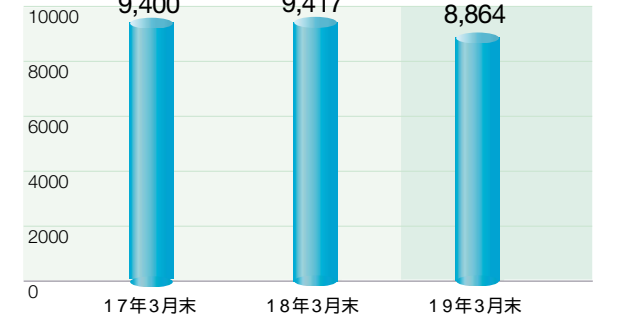
貸出金残高(全体・県内)



中小企業等貸出金の状況

中小企業等貸出金残高は、不良債権のオフバランス化を積極的に進めたことなどから、前年比552億円減少し8,864億円となりました。

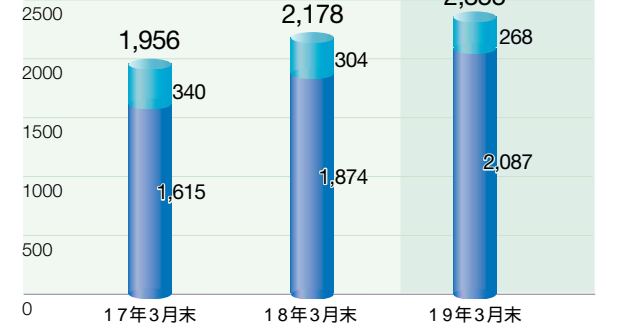
中小企業等貸出金残高(期末残高) (単位:億円)



ローン残高(期末残高)

住宅ローンの増加により前年比177億円増加し2,355億円となりました。

ローン残高(期末残高) (単位:億円)

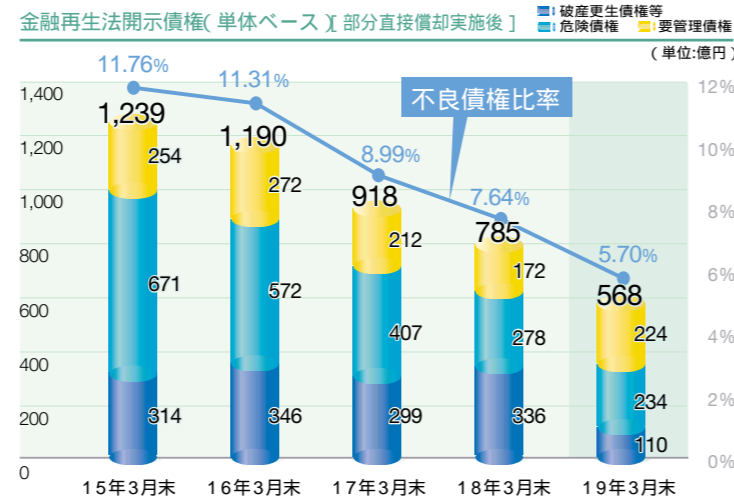


不良債権の状況

不良債権の状況

当行は、再建途上にある地域企業に対する再建支援を行うとともに、破綻した先についてはバルクセール等による不良債権のオフバランス化を進めた結果、不良債権残高(金融再生法開示債権)は前年比217億円減少し568億円となりました。

また、総と信に対する残高比率(不良債権比率)も前年比1.94%低下し、5.70%となりました。



部分直接償却とは、自己査定により回収不能または無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額することです。このため、部分直接償却を実施すれば、不良債権残高は減少します。

不良債権に対する備え

平成19年3月末の金融再生法開示債権568億円のうち、418億円は貸倒引当金および担保・保証等でカバーしており、保全率は73.6%と十分な引当・保全状況を維持しています。

不良債権の保全内訳(金融再生法開示債権、単体ベース)

(平成19年3月末) (単位:億円)

|         | 債権額 | 保全等カバー | 引当金 | 担保・保証等 | 保全率    |
|---------|-----|--------|-----|--------|--------|
| 破産更生債権等 | 110 | 110    | 36  | 75     | 100.0% |
| 危険債権    | 234 | 195    | 95  | 99     | 83.2%  |
| 要管理債権   | 224 | 113    | 59  | 55     | 50.4%  |
| 合計      | 568 | 418    | 189 | 229    | 73.6%  |

用語解説

「金融再生法開示債権の定義」

「債権額とは」貸出金、外国為替、未収利息、支払承諾見返、貸付有価証券、仮払金等の合計額。

「危険債権とは」債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

「破産更生債権およびこれらに準ずる債権とは」破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権。

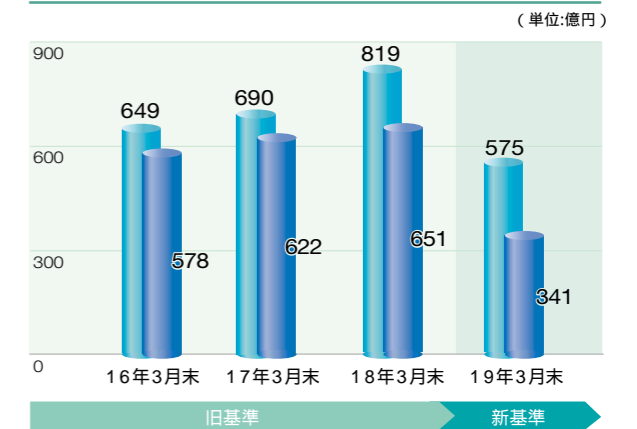
「要管理債権とは」3か月以上延滞債権および貸出条件緩和債権。

自己資本比率の状況(連結国内基準)

自己資本比率は、平成19年3月期からバーゼルの新規制に基づいて算出しており、当行は標準的手法(注1)を採用しております。

優先出資証券等による資本調達を行いました。当期純損失の計上や新基準による算出方法の変更の影響もあり、連結での自己資本比率は前年比(前年は旧基準)2.67%の6.61%となっておりますが、国内基準行の目安とされる4%は十分に上回っております。

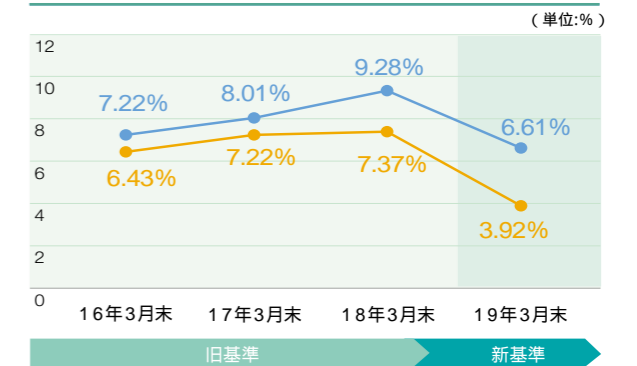
自己資本残高(連結)



リスク・アセット残高(連結)



自己資本比率・Tier比率(連結)



用語解説

「自己資本比率」

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{資本金などの自己資本(注2)}}{\text{リスク・アセット(注3)}}$$

リスク・アセット(貸出金などの資産)に対する自己資本(資本金および過去の利益の蓄積等)の割合を示したもので、経営の安全性を示す重要な指標といわれています。

(注1)平成19年3月末から、新しい自己資本比率規制(バーゼル)に基づき、信用リスクについては標準的手法を、またオペレーショナル・リスクについては基礎的手法を採用し、自己資本比率を算出しております。

(注2)「自己資本」は、資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目(Tier)と、劣後ローン・土地の含み益・一般貸倒引当金などの補完的項目(Tier)とに区分されます。

(注3)「リスク・アセット」とは、資産の各項目にそれぞれのリスク・ウェイト(信用リスクの度合い)を乗じて得た額の合計額のことです。

# 熊本ファミリー銀行の財務諸表

## 単体財務諸表

### 貸借対照表

(平成19年3月31日現在)  
(単位:百万円)

| 科目            | 金額               | 科目                 | 金額               |
|---------------|------------------|--------------------|------------------|
| <b>資産の部</b>   |                  | <b>その他の偶発損失引当金</b> | 494              |
| 現金預け金         | 63,148           | その他負債              | 8,376            |
| 買入金銭債権        | 136              | 再評価に係る繰延税金負債       | 2,113            |
| 有価証券          | 234,213          | 支払承諾               | 14,294           |
| 貸出金           | 980,574          | <b>負債の部合計</b>      | <b>1,306,655</b> |
| 外国為替          | 440              | <b>純資産の部</b>       |                  |
| その他資産         | 5,731            | 資本金                | 34,262           |
| 有形固定資産        | 17,424           | 資本剰余金              | 23,164           |
| 無形固定資産        | 496              | 資本準備金              | 23,164           |
| 繰延税金資産        | 26,993           | その他資本剰余金           | -                |
| 支払承諾見返        | 14,294           | 利益剰余金              | 48,695           |
| 貸倒引当金         | 26,998           | 利益準備金              | 320              |
| <b>資産の部合計</b> | <b>1,316,455</b> | その他利益剰余金           | 49,015           |
| <b>負債の部</b>   |                  | 別途積立金              | 7,100            |
| 預金            | 1,177,437        | 繰越利益剰余金            | 56,115           |
| 譲渡性預金         | 16,000           | 自己株式               | 121              |
| 借入金           | 45,800           | <b>株主資本合計</b>      | <b>8,609</b>     |
| 外国為替          | 2                | その他有価証券評価差額金       | 357              |
| 社債            | 35,500           | 土地再評価差額金           | 833              |
| 賞与引当金         | 489              | <b>評価・換算差額等合計</b>  | <b>1,190</b>     |
| 退職給付引当金       | 6,145            | <b>純資産の部合計</b>     | <b>9,800</b>     |
|               |                  | <b>負債及び純資産の部合計</b> | <b>1,316,455</b> |

### 損益計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)  
(単位:百万円)

| 科目              | 金額            |
|-----------------|---------------|
| 経常収益            | 35,093        |
| 資金運用収益          | 29,132        |
| (うち貸出金利息)       | 26,652        |
| (うち有価証券利息配当金)   | 2,208         |
| 役務取引等収益         | 4,269         |
| その他業務収益         | 509           |
| その他経常収益         | 1,182         |
| 経常費用            | 96,891        |
| 資金調達費用          | 3,594         |
| (うち預金利息)        | 2,472         |
| 役務取引等費用         | 2,383         |
| その他業務費用         | 1,564         |
| 営業経費            | 17,579        |
| その他経常費用         | 71,769        |
| <b>経常損失</b>     | <b>61,797</b> |
| 特別利益            | 3             |
| 特別損失            | 136           |
| 固定資産処分損         | 45            |
| 減損損失            | 90            |
| <b>税引前当期純損失</b> | <b>61,930</b> |
| 法人税、住民税及び事業税    | 19            |
| 法人税等調整額         | 4,915         |
| <b>当期純損失</b>    | <b>57,034</b> |

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表

(平成19年3月31日現在)  
(単位:百万円)

| 科目            | 金額               | 科目                 | 金額               |
|---------------|------------------|--------------------|------------------|
| <b>資産の部</b>   |                  | <b>賞与引当金</b>       | 519              |
| 現金預け金         | 63,162           | 退職給付引当金            | 6,174            |
| 買入金銭債権        | 136              | その他の偶発損失引当金        | 59               |
| 有価証券          | 233,408          | 再評価に係る繰延税金負債       | 2,113            |
| 貸出金           | 979,364          | 支払承諾               | 14,294           |
| 外国為替          | 440              | <b>負債の部合計</b>      | <b>1,280,526</b> |
| その他資産         | 6,513            | <b>純資産の部</b>       |                  |
| 有形固定資産        | 18,836           | 資本金                | 34,262           |
| 無形固定資産        | 500              | 資本剰余金              | 23,164           |
| 繰延税金資産        | 26,943           | 利益剰余金              | 47,784           |
| 支払承諾見返        | 14,294           | 自己株式               | 121              |
| 貸倒引当金         | 27,330           | <b>株主資本合計</b>      | <b>9,521</b>     |
| <b>資産の部合計</b> | <b>1,316,270</b> | その他有価証券評価差額金       | 357              |
| <b>負債の部</b>   |                  | 繰延ヘッジ損益            | -                |
| 預金            | 1,176,954        | 土地再評価差額金           | 833              |
| 譲渡性預金         | 16,000           | <b>評価・換算差額等合計</b>  | <b>1,190</b>     |
| 借入金           | 45,800           | 少数株主持分             | 25,032           |
| 外国為替          | 2                | <b>純資産の部合計</b>     | <b>35,744</b>    |
| 社債            | 10,000           | <b>負債及び純資産の部合計</b> | <b>1,316,270</b> |
| その他負債         | 8,607            |                    |                  |

### 連結損益計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)  
(単位:百万円)

| 科目                 | 金額            |
|--------------------|---------------|
| 経常収益               | 35,901        |
| 資金運用収益             | 29,261        |
| (うち貸出金利息)          | 26,783        |
| (うち有価証券利息配当金)      | 2,207         |
| 役務取引等収益            | 4,403         |
| その他業務収益            | 1,075         |
| その他経常収益            | 1,161         |
| 経常費用               | 95,816        |
| 資金調達費用             | 3,078         |
| (うち預金利息)           | 2,472         |
| 役務取引等費用            | 2,252         |
| その他業務費用            | 2,821         |
| 営業経費               | 17,258        |
| その他経常費用            | 70,405        |
| <b>経常損失</b>        | <b>59,914</b> |
| 特別利益               | 30            |
| 固定資産処分益            | 15            |
| 特別損失               | 137           |
| 固定資産処分損            | 47            |
| その他の特別損失           | 90            |
| <b>税金等調整前当期純損失</b> | <b>60,021</b> |
| 法人税、住民税及び事業税       | 25            |
| 法人税等調整額            | 4,837         |
| 少数株主損失             | 14            |
| <b>当期純損失</b>       | <b>55,195</b> |

### 株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで) (単位:百万円)

|                        | 株主資本   |        |          |        |         |         |        |        |              | 評価・換算差額等 |          |    |     | 純資産合計 |        |
|------------------------|--------|--------|----------|--------|---------|---------|--------|--------|--------------|----------|----------|----|-----|-------|--------|
|                        | 資本剰余金  |        |          | 利益剰余金  |         |         | 自己株式   | 合計     | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益  | 土地再評価差額金 | 合計 |     |       |        |
|                        | 資本金    | 資本準備金  | その他資本剰余金 | 利益剰余金  | 繰越利益剰余金 | 繰上利益剰余金 |        |        |              |          |          |    |     |       |        |
| 前事業年度末残高               | 34,262 | 23,164 | -        | 23,164 | 160     | 3,100   | 5,831  | 9,091  | 100          | 66,417   | 700      | -  | 871 | 1,572 | 67,989 |
| 当事業年度変動額               |        |        |          |        |         |         |        |        |              |          |          |    |     |       |        |
| 剰余金の配当                 |        |        |          |        |         |         | 791    | 791    |              | 791      |          |    |     |       | 791    |
| 当期純損失                  |        |        |          |        |         |         | 57,034 | 57,034 |              | 57,034   |          |    |     |       | 57,034 |
| 自己株式の取得                |        |        |          |        |         |         |        |        | 21           | 21       |          |    |     |       | 21     |
| 自己株式の処分                |        |        |          |        |         |         | 0      | 0      | 1            | 1        |          |    |     |       | 1      |
| 土地再評価差額金の取崩額           |        |        |          |        |         |         | 38     | 38     |              | 38       |          |    |     |       | 38     |
| その他                    |        |        |          |        | 160     | 4,000   | 4,160  |        |              | -        |          |    |     |       | -      |
| 株主資本以外の項目の当事業年度変動額(純額) |        |        |          |        |         |         |        |        |              | -        | 343      | -  | 38  | 381   | 381    |
| 当事業年度変動額合計             | -      | -      | -        | -      | 160     | 4,000   | 61,947 | 57,787 | 20           | 57,807   | 343      | -  | 38  | 381   | 58,189 |
| 当事業年度末残高               | 34,262 | 23,164 | -        | 23,164 | 320     | 7,100   | 56,115 | 48,695 | 121          | 8,609    | 357      | -  | 833 | 1,190 | 9,800  |

### 連結株主資本等変動計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで) (単位:百万円)

|                            | 株主資本   |        |        |      |        | 評価・換算差額等 |              |         |          | 少数株主持分 | 純資産合計  |    |
|----------------------------|--------|--------|--------|------|--------|----------|--------------|---------|----------|--------|--------|----|
|                            | 資本剰余金  |        | 利益剰余金  |      | 自己株式   | 合計       | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 土地再評価差額金 |        |        | 合計 |
|                            | 資本金    | 資本準備金  | 利益剰余金  | 自己株式 |        |          |              |         |          |        |        |    |
| 平成18年3月31日残高               | 34,262 | 23,164 | 8,539  | 125  | 65,840 | 700      | -            | 871     | 1,572    | 9      | 67,421 |    |
| 当連結会計期間中の変動額               |        |        |        |      |        |          |              |         |          |        |        |    |
| 剰余金の配当                     |        |        | 1,126  |      | 1,126  |          |              |         |          |        | 1,126  |    |
| 当期純損失                      |        |        | 55,195 |      | 55,195 |          |              |         |          |        | 55,195 |    |
| 自己株式の取得                    |        |        |        | 21   | 21     |          |              |         |          |        | 21     |    |
| 自己株式の処分                    |        |        |        | 26   | 26     |          |              |         |          |        | 26     |    |
| 土地再評価差額金の取崩額               |        |        |        | 40   | 40     |          |              |         |          |        | 40     |    |
| 株主資本以外の項目の当連結会計期間中の変動額(純額) |        |        |        |      |        | 343      | -            | 38      | 381      | 25,023 | 24,641 |    |
| 当連結会計期間中の変動額合計             | -      | -      | 56,323 | 4    | 56,319 | 343      | -            | 38      | 381      | 25,023 | 31,677 |    |
| 平成19年3月31日残高               | 34,262 | 23,164 | 47,784 | 121  | 9,521  | 357      | -            | 833     | 1,190    | 25,032 | 35,744 |    |

### 産学連携支援サービス

大学が有する研究成果等を地域に還元すること、ならびに当行取引先が検討している新商品・新製品開発等を大学と共同開発することにより、地域の産学連携を推進し、より一層の地域中小企業および地域社会の発展に貢献することを目的にサービスを提供しています。現在、熊本大学、九州東海大学、崇城大学と提携しています。

### 各種セミナー・相談会の開催

熊本ファミリーニュービジネスクラブを通じてさまざまなセミナーや研修会を開催し、会員の皆さまの事業活動支援を行っています。

また、当行は「社外経営会議」と称するさまざまな業種の若手経営者の交流・研修の場を提供し、外部からの講師を交えて勉強会を開催しています。現在は第10期生が21名参加されており、第1期から延べ220人の方に参加いただいています。



### 地域行事への参加

当行は、地元の行事やイベントにも積極的に参加しています。毎年8月に行われる「火の国まつり」をはじめ各地区で催される祭りやスポーツ大会等に積極的に参加し、地域の皆さまとの輪を大切にしています。



### 女声合唱フェスティバル

当行が協賛する熊本県おかあさんコーラス連盟による熊本県女声合唱フェスティバルは、皆さんの日頃の成果を発表する場として、地元の皆さまの定例行事になっています。



### 平成18年11月 菊陽支店のオープンについて

県庁支店以来5年ぶり(県庁支店を除く一般店舗では12年ぶり)に菊陽支店を開業いたしました。福岡銀行との経営統合を機に店舗網を拡充し、お客さまの利便性向上のための施策であり、更なる積極経営に向けた店舗施策の第一弾と位置付けています。



### 平成19年1月 熊本県内初のイーネットコンビニATMサービス開始について

熊本県内初のイーネットコンビニATMサービスを開始いたしました。熊本県内では、従来のセブンイレブンに加えて、ファミリーマート・ポプラ・デイリーヤマザキなどに設置されるイーネットATMでのキャッシュカード利用が可能となり、キャッシュポイントが大きく増加しました。設置場所は順次拡大しています。



### 平成19年3月 「夏の涼風<すずかぜ>定期」に係わる「熊本県地球温暖化防止活動推進センター」への寄付の実施について

夏の気温で金利が決まる「夏の涼風 すずかぜ 定期」に関し、「熊本県地球温暖化防止活動推進センター」へ1,000万円を寄付いたしました。

お客さまの「エコ(地球温暖化防止)」に対する意識を高めていただくことを目的の一つとして取り扱いましたが、この取組の内容が海外の新聞でも紹介されるなど、大変好評を得ることができ、販売予定総額を上回る152億円を販売することができました。



### 平成19年5月 「インフォネットフェスティバル2007」の開催について

平成19年5月18日・19日の2日間、インフォネットフェスティバル2007(大商談会)を開催しました。

今回は、ふくおかフィナンシャルグループとして開催し、福岡銀行のお取引先企業に加え、親和銀行のお取引先からも出展いただき、320社の出展により、約2万人の方々にご来場いただきました。



# ふくおかフィナンシャルグループからのお知らせ

## 親和銀行への経営支援に係わる基本合意の概要

ふくおかフィナンシャルグループは、平成19年5月2日付「親和銀行に対する経営支援について」对外公表以降、九州親和ホールディングスおよび親和銀行との間で同行の経営統合を視野に入れた具体的な支援策の検討を進めてまいりました。

その結果、平成19年5月24日の取締役会において、株主の承認および関係当局の認可を前提に、親和銀行をふくおかフィナンシャルグループの完全子会社とする経営統合を実施すること、同行の経営再建および資本支援等を実施することについて決議を行いました。

### 経営支援の目的

- (1)親和銀行のお取引先の保護および地域金融システムの安定化を確保する観点から、将来に渡る親和銀行の事業継続性を維持・向上させることを目指してまいります。
- (2)親和銀行の真の再生を実現し、ふくおかフィナンシャルグループの力を結集して地域金融機関としての地位を揺るぎないものとする中で、地域金融システムの安定化および地域経済の活性化を実現してまいります。

### 経営統合の形態

親和銀行をFFGの完全子会社といたします。

### 経営統合の方法

九州親和HDの保有する親和銀行の株式の全部およびしんわディーシーカード株式会社の株式の全部をふくおかFGに譲渡することによって行われます。

### 経営統合の実行日

平成19年10月1日以降といたします。(経営陣・事務局からなる統合準備委員会を組織して準備を進めてまいります。)

### 株式譲渡価格

FFGが九州親和HDに交付すべき対価は、760億円を上限とし、FFGが平成19年6月末日までを目処として実施するデュレリジェンス( )の結果を考慮した上で、決定するものといたします。

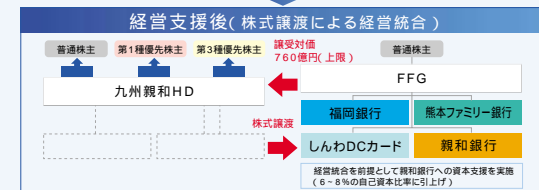
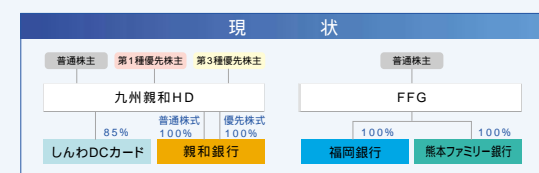
デュレリジェンスとは資産評価手続のことです。

### スケジュール(いずれも現時点における予定です。)

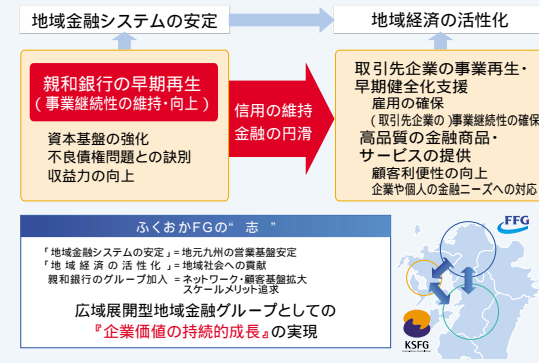
|              |                    |
|--------------|--------------------|
| 平成19年6月28日   | 定時株主総会(九州親和HD)     |
| 平成19年7月6日まで  | 本件経営統合にかかる契約締結     |
| 平成19年9月7日まで  | 臨時株主総会(FFG・九州親和HD) |
| 平成19年10月1日以降 | 本件経営統合             |

## 経営支援スキームの概要

九州親和ホールディングスが保有する親和銀行株式をふくおかフィナンシャルグループが760億円を上限として譲り受けることにより、親和銀行は、ふくおかフィナンシャルグループの傘下銀行(完全子会社)に経営統合いたします。両社の株主総会における承認、および関係当局の認可を前提として、2007年10月1日以降に早期経営統合を実現いたします。



【経営統合の方法】  
九州親和HDが保有する親和銀行株式およびしんわDCカード株式の全部をFFGに譲渡  
九州親和HDは株式譲渡の対価として、FFGより760億円(上限)を受換(但し譲渡対価はデュレリジェンスの結果を踏まえたくて決定)  
親和銀行はFFGの完全子会社に(2007年10月1日以降)  
上記を前提に、九州親和HDは同社の臨時株主総会による株主様の承認を前提に解散譲渡対価を主たる原資とする分配金を株主様へ交付



# ローンセンター・ローンプラザのご案内

## 福岡銀行 ローンセンター・ローンプラザ



福岡銀行では、お客さまの住宅資金ニーズやご相談に適切にお応えできるように、ローンセンターを福岡県内14カ所に設置しています。本店・北九州のローンセンターで毎週日曜日、その他のローンセンターで月2回または1回の日曜営業を実施しています。

### 福岡銀行 ローンセンター

|  |  |  |   |   |
|--|--|--|---|---|
| <b>本店ローンセンター</b> 【本店2階】<br>住所 福岡市中央区天神2-13-1<br>電話 092-723-2231<br>FAX 092-725-1540      | <b>博多駅前ローンセンター</b> 【博多駅前支店2階】<br>住所 福岡市博多区博多駅前2-2-1<br>電話 092-441-3560<br>FAX 092-441-3563 | <b>西新町ローンセンター</b> 【西新町支店2階】<br>住所 福岡市早良区西新4-9-28<br>電話 092-821-2232<br>FAX 092-843-1836  | <b>姪浜ローンセンター</b> 【姪浜支店2階】<br>住所 福岡市西区姪浜駅南1-7-1<br>電話 092-881-2641<br>FAX 092-881-2675   | <b>大橋ローンセンター</b> 【大橋支店2階】<br>住所 福岡市南区大橋1-10-18<br>電話 092-551-2141<br>FAX 092-551-2148 |
| <b>雑餉隈ローンセンター</b> 【雑餉隈支店2階】<br>住所 福岡市博多区竹丘町2-2-21<br>電話 092-581-2621<br>FAX 092-581-2640 | <b>二日市ローンセンター</b> 【二日市支店2階】<br>住所 筑紫野市二日市中央2-5-1<br>電話 092-924-2129<br>FAX 092-923-4364    | <b>箱崎ローンセンター</b> 【箱崎支店】<br>住所 福岡市東区箱崎1-44-18<br>電話 092-641-0347<br>FAX 092-641-2661      | <b>香椎ローンセンター</b> 【香椎支店2階】<br>住所 福岡市東区香椎駅前2-12-13<br>電話 092-681-7601<br>FAX 092-671-9672 | <b>古賀ローンセンター</b> 【古賀支店】<br>住所 古賀市天神1-3-35<br>電話 092-943-7438<br>FAX 092-943-1764      |
| <b>北九州ローンセンター</b> 【小倉支店4階】<br>住所 北九州市小倉北区船場町2-1<br>電話 093-541-2720<br>FAX 093-541-1724   | <b>黒崎ローンセンター</b> 【黒崎支店2階】<br>住所 北九州市八幡西区黒崎3-2-2<br>電話 093-642-5326<br>FAX 093-642-5370     | <b>折尾ローンセンター</b> 【折尾支店1階】<br>住所 北九州市八幡西区折尾4-29-33<br>電話 093-601-9901<br>FAX 093-603-8577 | <b>久留米ローンセンター</b> 【久留米支店1階】<br>住所 久留米市日吉町16-18<br>電話 0942-32-4641<br>FAX 0942-32-4787   |   |

福岡銀行 ローンプラザ(ローンプラザでは、日曜営業は実施しておりません。)

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <b>行橋ローンプラザ</b> 【行橋支店2階】<br>住所 行橋市中央3-1-22<br>電話 0930-22-0447<br>FAX 0930-23-9767 | <b>飯塚ローンプラザ</b> 【飯塚支店】<br>住所 飯塚市片島1-2-25<br>電話 0948-22-5992<br>FAX 0948-22-7513 | <b>甘木ローンプラザ</b> 【甘木支店】<br>住所 朝倉市甘木1842-1<br>電話 0946-22-2943<br>FAX 0946-22-9051 | <b>大牟田ローンプラザ</b> 【大牟田支店1階】<br>住所 大牟田市不知火町1-4-1<br>電話 0944-52-3225<br>FAX 0944-51-8380 |
|---|---|---|---|

## 熊本ファミリー銀行 ローンプラザ



熊本ファミリー銀行では、平日にご来店できないお客さまのために、土曜日または日曜日でも住宅ローンのほか、各種ローンに関するご相談にお応えするローンプラザを設置しています。

(各ローンプラザにより、営業時間および休日が異なります。)

|   |  |
|---|--|
| <b>本店ローンプラザ</b> 【本店別館1階】<br>住所 熊本市水前寺6-29-20<br>電話 096-385-2424<br>FAX 096-385-9344 | <b>八代ローンプラザ</b> 【八代支店2階】<br>住所 八代市旭中央通り17-7<br>電話 0965-32-7077<br>FAX 0965-32-7822 |
| <b>鹿兒島ローンプラザ</b> 【鹿兒島支店3階】<br>住所 鹿兒島市中央町13-1<br>電話 099-257-1476<br>FAX 099-257-1477 |  |

## 商品のご案内

### 福岡銀行「arecoreカード」

キャッシュカードにクレジット機能とローン機能がついた、ふくぎん のarecoreカードは、お客さまから大変ご好評いただき、発行枚数は既に22万枚に達しています。

アレコレひとつで、アレコレうれしい。**arecore**



福岡銀行所定の審査がございます。審査結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

### 熊本ファミリー銀行「arecoreカード」

キャッシュカードも  
クレジットカードも  
**これ1枚** arecoreカード登場!  
カラーも選べてアレコレ使える。

**Red**

オシャレなファッション!  
カードだってスタイリッシュ!



**Yellow**

コンビニATMでも  
アレコレ手軽にお取引!



**Green**

海外に行っても  
いつでもアレコレ便利!



**Blue**

熊本ファミリ - 銀行の  
ATM時間外手数料が無料!(1年間)



(株)熊本カード所定の審査がございます。審査結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

#### キャッシュカードとして

arecoreは、あなたの預金を指で守る!生体認証、IC機能搭載の最新セキュリティカード。

#### クレジットカードとして

arecoreは、3つのブランドから展開。VISA、Master Card、JCBから選べます。

#### ローンカードとして

arecoreは、カードローン機能付。いざという時にも慌てることなく安心です。

本年4月より、キャッシュカードとクレジットカードの機能が一つになったarecoreカードのお取り扱いを、熊本ファミリー銀行でも開始いたしました。

(ふくぎん のarecoreカードとは、デザインや機能が一部異なります。)

#### キャッシュカードとして

熊本ファミリー銀行、福岡銀行のほか、郵便局やコンビニエンスストアなどのATMでもお取引が出来ます!

#### クレジットカードとして

arecoreカードのVISAは、日本でも、世界でもあなたのライフシーンをサポートします!

### 「ナイスカバー」

『ナイスカバー』は、簡単にスピーディーに をコンセプトとした、フリーローン商品です。収入がある20歳以上(65歳以下)<sup>注1</sup>の方であれば、電話・インターネット・携帯電話・FAX等から簡単に お申し込みができ、「即日振込サービス」をご利用いただければ、当日中にスピーディーに 預金口座へ融資金をお振込させていただきます。

福岡銀行・熊本ファミリー銀行両行でお取り扱いをしております。

注1 カードローンタイプは60歳以下

#### 分割返済タイプ

お使いみちは自由です。

ご利用は10万円から  
最高300万円まで。

最長7年のラクラク返済。  
計画的なご利用が可能です。

#### カードローンタイプ

キャッシュカード同様に銀行のCD・ATMで現金の引き出しができます。

余裕のあるときはATMでいつでも、  
いくらでも返済可能です。

「セブン銀行」マーク<sup>7</sup>または「E-net」  
マーク<sup>E-net</sup>のあるコンビニエンス  
ストアで、平日24時まで現金の引き出し  
ができます。  
(ご利用の際は、所定の手数料が必要です)

福岡銀行・熊本ファミリー銀行所定の審査がございます。審査結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

### ホームページご案内

ふくおかフィナンシャルグループ



<http://www.fukuoka-fg.com/>

福岡銀行



<http://www.fukuokabank.co.jp/>

熊本ファミリー銀行



<http://www.kumamotofamilybank.co.jp/>

いつでも  
どこでも  
お申込みOK  
フリーローン

# ナイスカバー



お使いみち自由

アルバイト・パートの方も  
お申込みOK

お急ぎの方には即日振込サービス

## 「ふくおかフィナンシャルグループ」グループ企業の格付(平成19年4月2日現在)

### ふくおかフィナンシャルグループの格付

|                 | 種類    | 格付  | 格付の定義               |
|-----------------|-------|-----|---------------------|
| 格付投資情報センター(R&I) | 発行体格付 | AA- | 信用力は極めて高く、優れた要素がある。 |

### 福岡銀行の格付

|                 | 種類       | 格付  | 格付の定義   |
|-----------------|----------|-----|---|
| ムーディーズ          | 長期銀行預金格付 | A3  | 預金債務に関して、信用力が良好である銀行に対する格付け。ただし、長期的に見て信用力に影響を及ぼしうる要素があるとも考えられる。 |
|                 | 短期銀行預金格付 | P-2 | 預金債務に関して、信用力が高く、短期預金債務を遅延なく履行する能力が高い銀行に対する格付け。                  |
| 日本格付研究所(JCR)    | 長期優先債務格付 | AA- | 債務履行の確実性は非常に高い。   |
| 格付投資情報センター(R&I) | 発行体格付    | AA- | 信用力は極めて高く、優れた要素がある。   |

### 熊本ファミリー銀行の格付

|                 | 種類       | 格付 | 格付の定義                |
|-----------------|----------|----|----------------------|
| 日本格付研究所(JCR)    | 長期優先債務格付 | A  | 債務履行の確実性は高い。         |
| 格付投資情報センター(R&I) | 発行体格付    | A+ | 信用力は高く、部分的に優れた要素がある。 |

平成19年5月31日現在、同年5月2日にふくおかフィナンシャルグループが九州親和ホールディングスおよび親和銀行から経営支援の要請を受けたことを理由として、格付投資情報センター(R&I)から取得している全ての格付けおよび日本格付研究所(JCR)から取得している福岡銀行の格付けに関しては、格下げの方向で見直し作業を行う旨の発表が行われています。

#### 用語解説

「格付とは」 企業が発行する債券(社債等)や銀行預金の元金・利息支払の安全度を第三者の格付会社が判断し、記号で表したものです。企業の安全度を客観的に評価したものと重要な指標であるとともに、最近では、機関投資家のみならず一般の預金者の方々にも広く知られるものとなっています。格付会社には、世界的に権威のある「ムーディーズ」や国内の格付会社である「日本格付研究所(JCR)」や「格付投資情報センター(R&I)」などがあります。

## ふくおかフィナンシャルグループ 株式の状況

### 株式の状況(平成19年4月2日現在)

|         | 株主数     | 発行済株式の総数     |
|---------|---------|--------------|
| 普通株式    | 24,074名 | 755,916,290株 |
| 第一種優先株式 | 558名    | 18,742,000株  |
| 第二種優先株式 | 1名      | 40,000,000株  |

### 配当方針について

FFGはすべてのステークホルダーに対し、価値創造を提供する金融グループを目指すとともに、株主の皆さまの期待にお応えするために、業績連動型の配当方式を設定し、2008年3月期以降において、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針といたします。

| 連結当期純利益        | 1株あたり配当金目安 |
|----------------|------------|
| ~250億円以下       | 年間 7円~     |
| 250億円超~300億円以下 | 年間 8円~     |
| 300億円超~350億円以下 | 年間 9円~     |
| 350億円超~400億円以下 | 年間10円~     |
| 400億円超~450億円以下 | 年間11円~     |
| 450億円超~        | 年間12円~     |

但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります

| 大株主(普通株式 上位10位)  | 所有株式数(千株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--|-----------|------------------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)  | 33,732    | 4.46                   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)                                      | 28,212    | 3.73                   |
| 九州電力株式会社   | 19,296    | 2.55                   |
| 日本生命保険相互会社   | 17,772    | 2.35                   |
| 明治安田生命保険相互会社   | 17,719    | 2.34                   |
| 第一生命保険相互会社   | 17,315    | 2.29                   |
| 住友生命保険相互会社   | 17,298    | 2.28                   |
| パークレイズ バンク ビーエルシー<br>パークレイズ キャピタル セキュリティーズ<br>エスピーエル/ビービーアカウント | 17,041    | 2.25                   |
| 株式会社福岡銀行   | 16,862    | 2.23                   |
| 株式会社広島銀行   | 16,529    | 2.18                   |

(注) 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しています。  
割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

### 株式のご案内

事業年度……………毎年4月1日から翌年3月31日まで(平成19年度は4月2日から)

定時株主総会……………毎年6月(平成20年6月以降)

基準日……………定時株主総会の議決権…毎年3月31日

期末配当……………毎年3月31日 中間配当……………毎年9月30日  
その他必要がある時はあらかじめ公告いたします。

公告掲載……………電子公告(当社ホームページ <http://www.fukuoka-fg.com>)

ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞並びに福岡市で発行される西日本新聞および熊本市で発行される熊本日日新聞に掲載いたします。

### 株式事務取扱場所・取次所

株主名簿管理人……………日本証券代行株式会社

同事務取扱場所……………日本証券代行株式会社 福岡支店 TEL 092 741 0284

郵便物送付先……………〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部

お問合せ先……………[用紙のご請求] ☎0120-707-842 [その他のご照会] ☎0120-707-843

同取次所……………日本証券代行株式会社 本支店